

2023 年度弘陵造船航空会・交流会 報告
(第 53 回総会及び第 46 回講演会)

1982 年(昭和 57 年)卒 中島喜之

2023 年度弘陵造船航空会・交流会が、2023 年(令和 5 年)5 月 20 日(土)13:00 から開催されました。本年度も、昨年同様コロナ禍を考慮し、“Zoom”によるオンラインでの開催となりました。

今回の交流会の司会進行は、事務局のご指導・ご支援の下、担当年次である 1982 年卒のクラス幹事の中島が担当しました。

本報告を行うにあたり、交流会の準備・運営に多大なご指導とご支援をいただいた、飯島会長をはじめ役員・事務局の方々に心より御礼を申し上げます。

以下に交流会の報告をいたします。

1. 開催日時 2023 年(令和 5 年)5 月 20 日(土)13:00~15:25
2. 開催方式 “Zoom”によるオンライン開催
3. 参加者 総会 25 名、講演会 33 名
4. 第 53 回総会 13:00~14:30

(1)逝去者の報告と黙祷

開会の辞に続き、2022 年 4 月 20 日から 2023 年 4 月 30 日までに、事務局までご逝去の連絡をいただいた 23 名の会員のお名前を報告し、出席者全員で黙祷を捧げました。

(2)飯島会長挨拶

議事に先立ち、飯島会長からご挨拶をいただきました。その概要は以下のとおりです。

- コロナ禍が静まりつつあることから、今年度はリアルでの懇親会を、総会・講演会と同日に開催することを検討しましたが、準備期間の不足から総会・講演会はリモートにて本日、懇親会はリアルにて 7 月 22 日に開催することとしました。多くの皆様の懇親会への参加をお願いします。
- ここ 3 年ほど、新型コロナの感染拡大影響により、リモートでの活動を余儀なくされてきましたが、おかげでリモートのメリットも認識することができました。今後は、リアルとリモートのそれぞれのメリットを生かしなら、同窓会活動を行っていきたいと考えています。
- 今回の総会では、「会員名簿管理システムの導入」、「会報の電子ブックへの変更」および、「2024 年度からの理事選任方法」という重要な案件が予定されています。活発な討議をお願いします。

(3)2022 年度事業報告及び会計報告

斎藤理事より 2022 年度事業報告に関する説明、および鳥海理事より 2022 年度会計報告に関する説明がありました。

特記事項として、以下の説明がありました。

- 教室・役員懇談会および、海外短期留学渡航費支給は、コロナ禍のため実施せず。
- 会員名簿の更新を実施したが、ホームページのシステム不具合のためホームページに掲載せず。
- 会費の納入がショートしたため、本年度は 100 周年基金のみを積み立てた。

報告に対し特に異議はなく、2022 年度事業報告及び会計報告は承認されました。

(4)2022 年度会計監査報告

佐伯監事より 2022 年度会計監査に関し、問題ないことを確認した旨の報告があり、承認されました。

(5)2023 年度活動計画および予算案

齋藤理事より 2023 年度活動計画案に関する説明、および鳥海理事より 2023 年度予算案に関する説明がありました。

2022 年度の活動からの主な変更点に関し、以下の説明がありました。

- 奨学金に関し、コロナ特別対応は廃止し、従来通りとする。
- コロナ禍で中止していた海外短期留学渡航費支給を復活させる。
- 同じくコロナ禍で実施できなかった「同窓会活動活性化のための地方支援活動」の実施を計画している。（「地方の同窓会への参加」「工場実習期間中の教員出張時などに役員が同行」等）
- 弘陵賞のメダルの在庫が少なくなってきたため、10 個ほど新たに購入する。

報告に対し特に異議はなく、2023 年度活動計画及び予算案は承認されました。

(7)2023 年度役員人事案

飯島会長から、役員人事案が提案されました。

役 職	氏名(敬称略)	横浜国立大学卒業年次等
理事・会長	飯島 正明	1975(昭和 50)年学部卒業
理事・副会長	脇屋 元	1979(昭和 54)年学部卒業
理事・教室代表(新任)	西 佳樹	教授、海洋空間のシステムデザインEP教室主任
理事	鳥海 憲彦	1975(昭和 50)年学部卒業
理事	齋藤 政男	1978(昭和 53)年学部卒業
理事(新任)	近藤 健介	1976(昭和 51)年学部卒業
監事	真島 篤	1979(昭和 54)年学部卒業
監事(新任)	入江 泰雄	1973(昭和 48)年学部卒業、2022 年度アドバイザー

なお、これまで理事を務められた堀沢真人氏(1980 年学部卒)は、引き続きアドバイザーとしてご協力いただけるとのことです。

本提案に対し特に異議はなく、2023 年度役員人事案は承認されました。

(8)2024 年度からの理事選任方法案

堀沢理事より 2024 年度からの理事選任方法案に関する説明がありました。

近年、現役引退時期が遅くなり、引退を待っての理事就任には無理があること、理事就任の承諾が得られないケースがあること、また理事の若返りを図りたいこと等から、ガイドラインを設けて理事の順送りを行うこととしたい旨、説明がありました。

本提案に対し特に異議はなく、2024 年度からの理事選任方法案は承認されました。

(9)会報の電子ブックへの変更の提案

鳥海理事より会報の電子ブックへの変更の提案に関する説明がありました。

ペーパーレスによる省資源、印刷費および郵送費等の費用削減を目的に、会報の電子ブックへの変更を行いたい旨の説明があり、特に異議はなく、会報の電子ブックへの変更の提案は承認されました。

(10) 新任・退任役員挨拶

2023 年度新任役員の近藤氏、西先生および、退任される佐伯前監事から、ご挨拶をいただきました。

(11) 大学(教室)の近況及び弘陵賞受賞者紹介

西教室代表理事から、教室の歴史、教育・研究体制、教員の状況についての説明がありました。

卒業式・修了式にて、飯島会長より栗林亨樹君(修士論文)、海老原悠希君(卒業論文)に弘陵賞の授与と祝辞のスピーチが行われたことに対し、謝意が述べられました。

また、学生の就職状況について、以下の報告がありました。

- 学部卒業33名中、就職13名(造船2、船級1、海運1、運輸1、輸送用機器1、機械・電気・建設3、情報・コンサルティング3、官庁・独立行政法人1)、大学院進学18名、その他2名
- 大学院博士課程前期修了者29名中、就職24名(造船5、造船関連メーカ2、重工1、海運2、輸送用機器3、機械・電気・建設5、情報・コンサルティング5、官庁・独立行政法人1)、進学3名、その他2名

新型コロナが5類感染症へ移行したことから、今年度からはほぼ対面での授業となり、研究活動もほぼ通常通りとなってきていますが、多くの先生がオンラインの良い面は残すとの方針であるとのこと。

また、最近の学生は、「スマートフォンを持つ、スマートでデリケートな人たち」で、サークル加入率減、アルバイト従事率増、企業インターンシップ参加数増との報告がありました。

本報告に関し、平山相談役より「学生の教室間の移動の融通性、および現状」について質問があり、西先生より「学生の教室間移動は大学のシステムとして難しく、現状は従来と変わらない」旨の回答がありました。

(12) その他

会員名簿管理システムとして、現在の弘陵造船航空会・名簿データベースに替えて、工学系同窓会が共同で導入する「アルムネット」(国大化学会がすでに運用中)を使用することが、堀沢理事から報告されました。

「アルムネット」は弘陵造船航空会・名簿データベースとしてだけではなく、会員へのメール一斉送信機能、会員からの情報発信機能があるため、「弘陵広場」の代替として活用することを検討する旨の説明がありました。

なお、本年8月頃に、会員各位へ運用要領等を連絡し、運用を開始するとのこと。

以上をもって、弘陵造船航空会第53回総会は閉会しました。

5. 講演会 14:40~15:25

第46回講演会は、武井文男氏(1982年学部卒)より、「造船関連技術のご紹介及びベンチャー経営のCFO的視点」と題して、武井氏がCFO(チーフ・フィナンシャル・オフィサー)として経営に携わっておられるCAEソフトウェア開発のベンチャー企業(株)テクノスターの造船業界向け関連技術をご紹介いただくとともに、ベンチャー経営の現場においてCFOとして常に意識していることをご紹介頂きました。

(株)テクノスターは2002年設立されたベンチャー企業であり、若い従業員が多く、また、ベトナム等海外のエンジニアが多く在籍する、若く、国際色豊かな会社であり、自動車業界向け、造船業界向け、電気業界向けに様々なソリューションを提供している会社とのこと。

造船業界向けには、船体構造解析、船型開発、流体解析、船内騒音予測、ブロック吊りシミュレーション等に関するソリューションを提供しており、最近では半潜水式浮体構造物(セミサブ)や洋上風力発電の稼働状況シミュレーションに関するデジタルツインの研究を海外のベンチャー企業と共同で行っているとのこと。また、CFO的視点としては、「経営資源(ヒト、モノ、カネ)の最適配分」「アクセル&ブレーキ with スピード」「専門家ネットワーク

の構築」「成長段階に則した柔軟な体制構築」を心がけているとのことであり、いろいろと興味深いお話を聞くことができました。

講演後、平山相談役より、最近話題となっている ChatGPT などの AI の活用の状況について質問がありましたが、AI の取り組みは継続しているが、現状 ChatGPT については積極的な利用は行っていないとのことでした。また、本学からの採用の可能性についても質問があり、可能であれば積極的な採用を行いたい旨の説明がありました。

その他に質問は無く、これをもって講演会を終了としました。

最後に、事務局から 7 月 22 日開催予定の懇親会のお知らせがあり、多くの方々の参加をお願いし、2023 年度弘陵造船航空会・交流会(第 53 回総会及び、第 46 回講演会)を閉会としました。

以上